

ガバナンス：エグゼクティブサマリー

JFEグループは、鉄鋼事業、エンジニアリング事業および商社事業を柱とし、多くのグループ会社や協力会社とともに極めて広範かつ多様な事業を展開しています。

適切なガバナンス体制の構築は各事業会社の自主性・効率性の向上および環境・安全・防災面を含めたさまざまな事業リスクを適切に管理する上で必要不可欠であり、グループの持続的な成長や中長期的な企業価値向上のために重要だと考えています。

コーポレートガバナンスの充実に向け、これまでコーポレートガバナンス基本方針の制定、指名委員会・報酬委員会の設置、取締役会の実効性評価などのさまざまな取り組みを実施しており、2025年6月開催の定時株主総会の承認をもって、監査等委員会設置会社に移行しました。2026年4月には取締役会付議基準およびその運営を見直すとともに、各種体制の強化にも努めました。

また、第8次中期経営計画の開始に合わせ、役員報酬制度を改定しています。基本報酬に関しては、業績連動報酬の比率を増やし、基本報酬：年次賞与：株式報酬の比率を2：1：1としています。また、賞与は、財務指標に加え、ESG指標として、安全指標、気候変動指標、従業員エンゲージメント指標を採用し、株式報酬の算定指標をROE（自己資本利益率）および相対TSR（株主総利回り）を採用しています。

コンプライアンスの徹底は、ステークホルダーとの信頼関係の基盤であり、事業活動の基本であると考えています。経営上の重要課題として「企業倫理の徹底と法令遵守」を掲げるとともに、2026年4月には「コンプライアンスに関するグループ基本方針」を制定するとともに、責任を明確化すべく、当社および事業会社にCCO（最高コンプライアンス責任者）を設置し、体制を強化しました。CCOを委員長とする「グループコンプライアンス委員会」でコンプライアンス遵守への取り組みを監督・指導し、重要施策については取締役会に報告し審議することにより、指示監督を受けています。

リスクマネジメントについては、当社が持株会社としてグループの包括的なリスク管理を担っており、当社の取締役会がリスク管理の監督およびその実効性を確認する体制を構築しています。また、取締役会での議論を踏まえ、グループ全体のリスク管理についての継続的な改善を図っています。

ガバナンスに関する経営上の重要課題（マテリアリティ）に対する目標・実績

> **2025年度のKPI実績と2026年度のKPI**（P.19）

主な取り組み

- 第8次中期経営計画の開始に合わせ、役員報酬制度を改定（P.256）
- 第三者機関を起用して**取締役会の実効性の分析・評価**（P.255）を実施
- 取締役の**スキルマトリックス**（P.251）を開示
- 当社および事業会社の役員・従業員を対象に「**企業倫理等に関する意識調査**」（P.267）を定期的実施
- **取締役会によるグループ全体のリスク管理の監督および実効性の確認**（P.269）を継続的に実施
- 当社・事業会社に**CCO、事業会社CFO・CTOを設置**（P.250）し、ガバナンス体制を強化

コーポレートガバナンス

基本的な考え方

JFEグループは、鉄鋼事業、エンジニアリング事業および商社事業を柱とし、多くのグループ会社や協力会社とともに極めて広範かつ多様な事業を展開しています。適切なガバナンス体制の構築は各事業会社の自主性・効率性の向上および環境・安全・防災面を含めたさまざまな事業リスクを適切に管理する上で必要不可欠であり、グループの持続的な成長や中長期的な企業価値向上のために重要だと考えています。

また、JFEグループの企業理念を実践するために最良のコーポレートガバナンスを追求しさらなる充実を図ることを目的として、「JFEホールディングス コーポレートガバナンス基本方針」を制定しており、2025年6月開催の定時株主総会での承認をもって、監査等委員会設置会社に移行したことから、これを改定しました。

＜ JFEホールディングス コーポレートガバナンス基本方針 [\(https://www.jfe-holdings.co.jp/company/info/pdf/kihonhoushin.pdf\)](https://www.jfe-holdings.co.jp/company/info/pdf/kihonhoushin.pdf)

＜ コーポレートガバナンス報告書 [\(https://www.jfe-holdings.co.jp/company/info/pdf/corporate-governance.pdf\)](https://www.jfe-holdings.co.jp/company/info/pdf/corporate-governance.pdf)

体制・取り組み

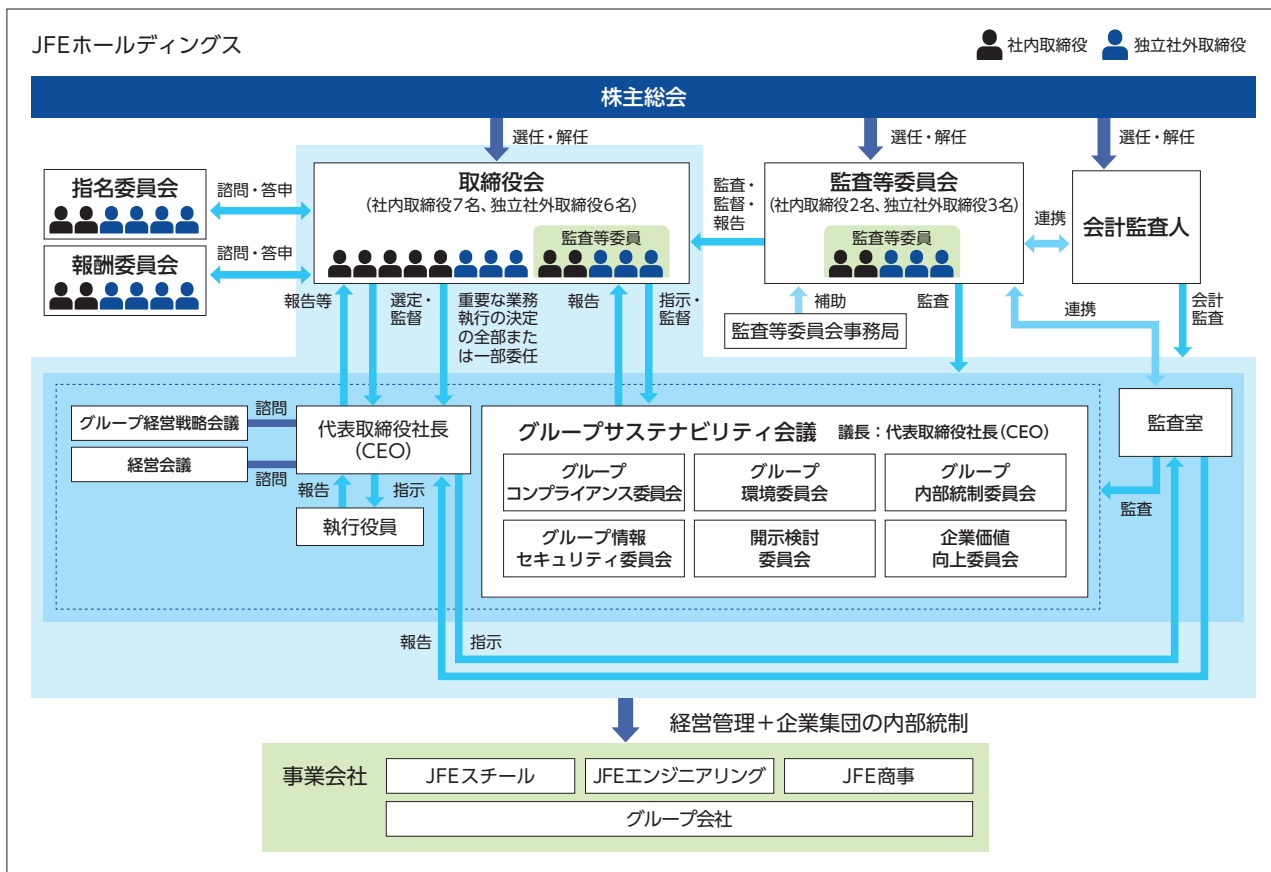
コーポレートガバナンス体制

グループ体制

JFEグループは、持株会社の傘下に事業を展開する3つの事業会社（JFEスチール、JFEエンジニアリング、JFE 商事）を置く経営体制をとっています。

純粋持株会社であるJFEホールディングスは、グループの一元的なガバナンスの中心にあって、全グループの戦略策定機能を担うとともに、リスク管理と対外説明責任を果たすなど、グループの中核としての業務を遂行しています。

また、事業会社は、事業分野ごとの特性に応じた最適な業務執行体制を構築して事業を推進し、競争力の強化と収益力の拡大を図っています。

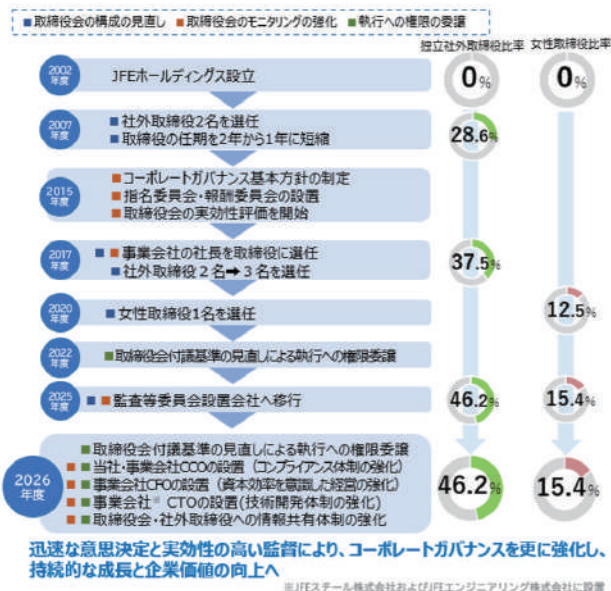


[> ガバナンスデータ \(P.292\)](#)

■ ガバナンス体制

当社は、経営の公正性・客観性・透明性を高めることにより、企業価値および株主共同の利益を持続的に向上させることを目的として、コーポレートガバナンス体制を次の通り構築しています。2025年6月開催の定時株主総会での承認をもって、経営の意思決定の迅速化および経営方針や戦略に関する議論の充実を図り、取締役会による監督機能を強化することを目的として監査等委員会設置会社に移行しました。また、2026年4月、取締役会付議基準およびその運営を見直しました。また、コンプライアンス体制、資本効率を意識した経営、技術開発の体制の強化にも努めています。

ガバナンス強化に向けた主な取り組み



■ コンプライアンス体制の強化

コンプライアンスの徹底に向けて、当社および事業会社にCCO（最高コンプライアンス責任者）を設置し、CCOをコンプライアンス施策の推進やコンプライアンス重大事態への対応の責任者としました。特に重大なコンプライアンス事案が発生した場合には、速やかに取締役会に報告し、取締役会が監督します。

■ 資本効率を意識した経営の強化

当社のCFO（最高財務責任者）は、成長投資と財務規律の両立を図り、資本効率を重視した経営を推進してきましたが、これまで以上に資本効率を意識した経営を推進するために、事業会社にCFOを設置しました。事業会社CFOは、投資案件の事業環境・採算性・リスク評価等について審議し、当社CFOがグループ全体の戦略や中期経営計画との整合性を審議します。当社CFO、事業会社CFOによる強固な体制で、企業価値の向上を推進していきます。

■ 技術開発体制の強化

技術開発と経営戦略の連動性を高め、価値創造につながる技術開発をより一層推進していくため、JFEスチールおよびJFEエンジニアリングにCTO（最高技術開発責任者）を設置し、技術開発にかかる執行体制を強化することとしました。

一 取締役会等の責務

■ 独立社外取締役の選任

独立社外取締役の割合を取締役の1/3以上とし、グローバル企業の経営者としての豊富な経験あるいは有識者としての深い知見を有する方々等の中から、ガバナンス強化の役割を担う独立社外取締役に相応しく、かつ当社の独立性基準を満たす人物を選任しています。なお、2026年7月1日現在、取締役13名の内6名が独立社外取締役となっています。

また、監査等委員である独立社外取締役を複数名選任することとし、グローバル企業の経営者としての豊富な経験あるいは有識者としての深い知見を有する方々等の中から、監査機能の充実の役割を担う監査等委員である独立社外取締役に相応しい人物を選任しています。なお、2026年7月1日現在、監査等委員である取締役5名の内3名が監査等委員である独立社外取締役となっています。

＞ JFEホールディングスの社外取締役独立性基準 (https://www.jfe-holdings.co.jp/common/pdf/company/info/dokuritsuseiki_jyun.pdf)

＞ ガバナンスデータ 取締役 (P.293)

■ 取締役会の多様性に関する考え方

取締役会の構成については、さまざまな分野における専門性や知識、経験などの多様性の充実に主眼を置き、規模の適正性とのバランスを勘案しつつ指名委員会における審議を経て役員を選任しています。また、グローバルに展開する企業の経営者としての豊富な知識と経験を有する取締役を選任するなど、ジェンダーや国際性の面での多様性向上にも努めています。なお、2026年7月1日現在、女性の取締役2名が在任しています。引き続きその候補たりうる人材の育成にも具体的な目標を定めて計画的に取り組んでいきます。

取締役のスキルマトリックス

当社は、当社およびJFEグループが、持続的な成長および中長期的な企業価値の向上を実現し、企業理念を实践するために最良のコーポレートガバナンスを追求し、そのさらなる充実を図ることを目的として、「JFEホールディングスコーポレートガバナンス基本方針」を制定しています。また、取締役会の構成については、さまざまな分野における専門性や知識、経験などの多様性の充実を目指しており、当社および事業会社の事業内容や経営課題を踏まえて、当社の経営に必要な備えるべきスキルを特定し、規模の適正性とのバランスを勘案しつつ、指名委員会における審議を経て役員候補者を選出しています。特定したスキルに対する各役員の知識・経験・能力を踏まえたスキルマトリックスは以下の通りです。

	氏名	企業経営 経営戦略	サステナビリティ 環境	テクノロジー DX	財務・ 会計	内部統制 ガバナンス	法務 コンプライアンス	人事労務 人材開発	営業 マーケティング	知見を有する 事業
取締役	社内	北野 嘉久	●	●		●		●		鉄鋼
		広瀬 政之	●			●			●	鉄鋼
		田中 利弘	●	●	●	●	●			鉄鋼／エンジニアリング／ 商社
		福田 一美	●	●		●			●	エンジニア リング
		祖母井 紀史	●	●		●			●	鉄鋼／商社
	社外	安藤 よし子		●		●	●	●		—
		島村 琢哉	●	●		●		●	●	—
		小林 敬一	●	●		●			●	—
監査等委員である取締役	社内	原 伸哉	●		●	●				鉄鋼
		秋本 なかば				●	●			鉄鋼／エンジニアリング／ 商社
	社外	沼上 幹	●		●	●			●	—
		鈴木 善久	●	●		●		●	●	—
		中村 直人	●			●	●			—

(2026年6月25日現在)

■ 取締役会・監査等委員会の主な任務・役割、2025年度実績

取締役会 **開催回数** 15回 **出席率** 99.6%

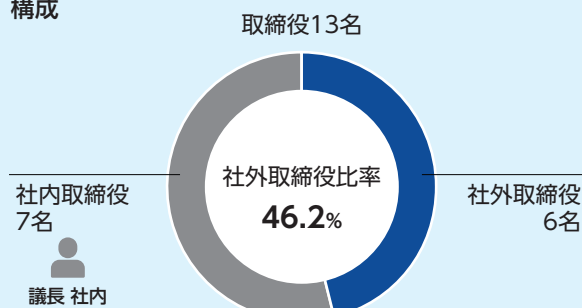
主な任務・役割

- ・会社の持続的成長と中長期的な企業価値の向上に責任を負う。
- ・JFEグループの経営計画や経営の基本方針を含む経営の重要な意思決定を行う。
- ・業務執行者による職務執行をはじめとする経営全般に対する監督を行う。

2025年度の主な議論の内容

- ・JFEビジョン2035、第8次中期経営計画の策定
- ・第8次中期経営計画の進捗状況
- ・大規模投資案件 (JSW JFE Electrical Steel Nashik Private Limitedの製造能力拡張、JSW Steel Limitedとの一貫製鉄所の合併事業化等)、投資フォローアップ
- ・サステナビリティ課題への取り組み (カーボンニュートラルに向けた取り組み、コーポレートガバナンス体制・コンプライアンス体制の強化等)

構成



監査等委員会 **開催回数** 14回 **出席率** 100%

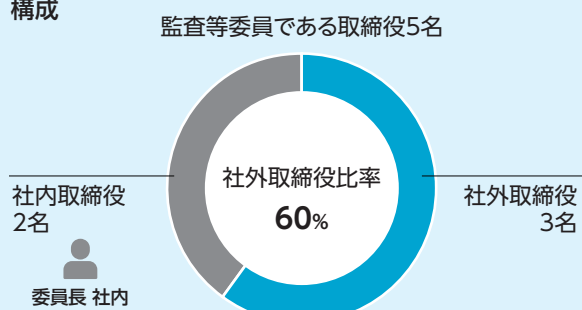
主な任務・役割

- ・会社の独立した機関として、取締役の職務執行を監査することにより、会社の健全で持続的な成長の確保と社会的信頼の向上に努める。
- ・当社の監査等委員は、監査等委員会を通じて、職務上知り得た重要な情報を、他の監査等委員と共有するように努めるとともに、他の監査等委員との意見交換を通じて、監査等の適正を期する。

主な活動

- ・取締役、執行役員および使用人等からの報告聴取、代表取締役との意見交換
- ・重要会議等への出席、往査・視察
- ・会計監査人、内部監査部門との連携
- ・取締役の選解任等・報酬等にかかる意見形成 等

構成



このほか、ガバナンス関連データは以下をご参照ください。

▶ [ガバナンスデータ](#) (P.292)

■ 指名委員会・報酬委員会、2025年度実績

JFEホールディングスでは、取締役等の人事および報酬について公正性、客観性および透明性を担保すべく、取締役会の諮問機関として、指名委員会および報酬委員会を設置しています。両委員会は、それぞれ委員の過半数を社外取締役で構成し、委員長は社外取締役の中から決定しています。

指名委員会

開催回数

3回

出席率

100%

主な任務・役割

取締役等の人事について、公正性、客観性および透明性を担保すべく、取締役会の諮問機関として、取締役に答申する。

主な活動内容

社長の選解任に関する基本方針、社長候補者の選任の原案、社長の後継者計画、社外取締役候補者の指名に関する事項の審議

構成

取締役6名

社外取締役比率

66.7%

社内取締役

2名

社外取締役

4名

委員長

社外

報酬委員会

開催回数

5回

出席率

100%

主な任務・役割

取締役等の報酬について、公正性、客観性および透明性を担保すべく、取締役会の諮問機関として、取締役に答申する。

主な活動内容

当社および事業会社の役員報酬に関する基本事項（水準の妥当性、報酬構成ならびに業績連動報酬の算定指標・算定式）の審議

構成

取締役6名

社外取締役比率

66.7%

社内取締役

2名

社外取締役

4名

委員長

社外

> [ガバナンスデータ](#)
[指名委員会・報酬委員会](#)
(P.294)

■ 取締役のサポート

取締役会事務局を総務部に置き、社外取締役をサポートするために必要な連絡・調整等の支援を行っています。また、社外取締役である監査等委員を中心に構成される監査等委員会の職務をサポートするため、専任の担当者を監査等委員会事務局に置いています。

取締役がその役割・責務を適切に果たすために必要となる法令やコーポレートガバナンス、リスク管理等を含む事項に関し、就任時および継続的に個々の取締役に適合したトレーニングの機会の提供やその費用の支援を行っています。

また、取締役会の開催に際しては、社外取締役を対象とする事前説明会等を開催し、各議題に関する資料を配布の上、説明を行っています。

さらに、当社経営会議等の資料を共有するとともに、当社およびグループ会社の経営上の重要な課題を適宜説明することに加え、社長を含む経営トップとの意見交換や、必要に応じて社内各部門から行う重要な業務報告聴取への出席、主要事業拠点での取締役会開催やグループ会社の視察等の機会を設け、職務遂行に必要な情報を十分に提供するように努めています。加えて、社外取締役のみの会合の場を設け、独立した客観的な立場に基づく自由な情報交換の場として活用しています。

2025年度実施実績

取締役会事前説明会 計14回

主要事業拠点における取締役会開催 2回

- ・JFEスチール東日本製鉄所(京浜地区)
- ・JFEスチール西日本製鉄所(福山地区)

社外取締役のみのミーティング開催 4回

(うち、執行との意見交換 2回)

主要事業拠点・グループ会社視察

- ・JFEスチール東日本製鉄所(京浜地区)
- ・JFEスチール西日本製鉄所(福山地区)
- ・JFEエンジニアリング笠岡モノパイル製作所
- ・豪州 Studco社、原料炭炭鉱



JFEエンジニアリング 笠岡モノパイル製作所

役員向け研修

- ・JFEグループ概要、中期経営計画進捗状況、財務状況、経営課題(新任社外取締役)
- ・グリーントランスフォーメーション(GX)関連政策および当社グループの取り組みに関する研修(取締役全員、2026年度)

社外取締役への情報提供

- ・経営会議およびグループ経営戦略会議の資料、議論の概要(2026年度)
 - ・マクロ経済概況、鉄鋼需給概況
 - ・月次損益
 - ・アナリストレポート
 - ・その他トピックス
- (統合報告書・サステナビリティ報告書の発行、展示会への出展、事業会社事業説明会の開催状況・内容、機関投資家との面談状況・関心事項、アナリスト見学会・スモールミーティングの開催状況・内容 等)

■ 取締役会の実効性評価

JFEホールディングスでは「コーポレートガバナンス基本方針」に基づき、2015年度から取締役会全体の実効性評価に取り組んでおり、2018年度以降、当社から独立した立場からの客観的な視点を取り入れるため第三者機関を起用して分析・評価を行っています。

なお、2025年度は、すべての取締役に對し以下の事項を内容とするアンケートを実施しました。加えて、2024年度の分析・評価において得られた意見および提言を踏まえた2025年度の取り組みの成果についても、検証しました。

アンケートの主な内容

- I. 取締役会の運営体制（取締役会の構成、運営、事務局の支援・連携体制、文化）
- II. 取締役会の監督機能・諮問委員会の機能（取締役会による監督機能、議論の状況、諮問委員会における議論の状況等）
- III. 株主・ステークホルダーとの関係

アンケート結果および第三者機関の評価を踏まえ取締役会にて議論を行った結果、取締役会は、取締役会事前説明会における十分な説明や議長の適切な采配等により、積極的に発言がなされるなど取締役会での議論が活性化され、全体としての実効性は確保されていると評価しました。

2024年度の実効性評価での課題

- ・ 監査等委員会設置会社への移行に伴い、執行への権限委任のあり方、取締役会の規模や多様性も含め、取締役会としてのあるべき姿についての議論をより充実させるべき。
- ・ 継続的に議論してきた人的資本経営や人権尊重の取り組み等の経営上の重要な課題に加え、市場評価の分析と改善に向けた議論のさらなる充実を図るべき。
- ・ 子会社や関連会社も含めたリスク情報に関する取締役会への報告を充実させ、グループ全体のリスク管理をさらに強化すべき。



2024年度までの実効性評価結果を踏まえた2025年度の取り組み

- ・ 監査等委員会設置会社への移行に伴い、取締役会においてグループ経営の目指す姿を議論した上で、意思決定の迅速化や戦略的議論の充実等を目的として、取締役会の付議基準およびその運営を見直しました。
- ・ 継続的に実施してきた社外取締役ミーティングの開催頻度を高めるとともに、必要に応じ、社外取締役が本ミーティングへの執行メンバーの参加を求め、経営上の重要な課題や市場評価の分析と改善に向けた取り組み等の共有・意見交換を行うことにより、取締役会における議論の活性化につなりました。
- ・ コンプライアンスに関するグループ基本方針を制定するとともに、責任を明確化すべく、当社および各事業会社にてCCO（最高コンプライアンス責任者）を設置し、体制強化を図りました。



2026年度に向けた課題

- ・ 監査等委員会設置会社への移行に伴い運営を見直した取締役会の実効性を確認するとともに、規模や構成も含め最適な体制に向けた議論を継続し、さらなる改善を図るべき。
- ・ 中長期の経営戦略の実現に向けて、計画との整合性や資本効率性に関する議論の充実に加え、株式市場における評価を分析し、改善に向けた議論のさらなる充実を図るべき。
- ・ 内部監査機能の実効性向上に向けて、内部監査の役割や体制等について継続的に議論を進めるべき。



抽出された課題を踏まえつつ、引き続き積極的な取り組みを行うことで、取締役会の実効性をさらに高め、当社グループの企業価値向上を図っています。

業務執行体制

重要事項の決定

グループを構成する各社の重要事項については、各社の規程により明確な決定手続きを定めており、グループ経営に関わる重要事項については、JFEホールディングスにおいて最終的な決定を行います。具体的には、各事業会社では、自社および傘下グループ会社の重要事項について、取締役会・経営会議等で決定しています。また、当社では、グループ全般の重要な経営戦略事項をグループ経営戦略会議で、自社・事業会社およびグループ会社の重要な個別事項を経営会議で審議したうえで、取締役会において決定しています。2025年度に監査等委員会設置会社に移行したことを踏まえ、執行への権限の委譲を進めるとともに、取締役会における監督機能の強化の取り組みを推進しています。

[ガバナンスデータ](#) **業務執行体制** (P.294)

役員報酬

取締役等の報酬は、報酬委員会における審議および答申を踏まえ策定された「当社取締役および執行役員の報酬に関する基本方針」および「当社取締役および執行役員の個人別報酬の決定方針」に基づき、株主総会で承認された範囲内で取締役会の決議または監査等委員である取締役の協議により決定されています。

当社取締役および執行役員の報酬に関する基本方針

- ・ 取締役（監査等委員である取締役を除く。以下同じ。）および執行役員の報酬制度については、「公正性」「客観性」「透明性」を担保すべく、報酬委員会にて妥当性を審議した上で取締役会において決定するものとします。
- ・ 取締役および執行役員の報酬は、当社グループの経営環境や同業ないし同規模他社の報酬水準を踏まえつつ、当社グループの企業理念を実践する優秀な人材を確保できる水準とします。
- ・ 当社グループの持続的な成長に向けた健全なインセンティブとなるよう、各取締役および執行役員の役割、責務等に応じて基本報酬と業績に連動する報酬（年次賞与、株式報酬）の割合を適切に設定します。

■ 当社取締役および執行役員の個人別報酬の決定方針の概要

- 取締役（監査等委員である取締役を除く。以下同じ。）および執行役員の報酬は、基本方針および決定方針に従い、報酬委員会の答申を踏まえ、取締役会の決議により決定する。
- 当社の取締役および執行役員に対する報酬は、基本報酬と業績連動報酬（年次賞与および株式報酬）から構成される。
- 基本報酬は、役位等に応じて毎月、定額を金銭で支給する。
- 年次賞与は、単年度の会社業績（財務指標および非財務指標に基づき算出）に連動させ、年1回、金銭で支給する。
- 株式報酬は、退任時に信託を通じて当社株式および当社株式を時価で換算した金額相当の金銭を給付する。
- 種類別の報酬割合は、上位の役職ほど業績連動報酬のウエイトが高まる構成とし、社長については業績目標を達成した場合の比率を「基本報酬：年次賞与：株式報酬＝2:1:1」とする。

なお、社外取締役および監査等委員である取締役については、独立した客観的な立場から経営の監督、監査を行うという役割に鑑み、基本報酬のみを支給します。事業会社の業務執行取締役を兼務する取締役については、当社からの年次賞与および株式報酬の支給は行いません。

また、業績連動報酬については、第8次中期経営計画を踏まえ、2025年度より算定方法を変更し、以下の通り算定を行っています。

● 年次賞与

年次賞与は、単年度の業績に連動する報酬であり、財務業績に連動する部分とESG業績に連動する部分から構成されています。財務業績は、単年度のセグメント利益の合計額を指標とします。ESG業績は、従業員の安全に関する指標（休業災害度数率により算出。ただし、死亡災害発生時は0%とする）、気候変動に関する指標（「気候変動問題への取り組み」に関するKPIの実績により算出）および従業員エンゲージメントに関する指標（「人的資本経営の推進」のうち「働きがいの向上」に関するKPIの実績により算出）を用いて算出します。なお、各指標の目標達成度がすべて100%となった場合の年次賞与の構成比率は、財務業績：安全指標：気候変動指標：従業員エンゲージメント指標＝8：1：1：1となります。

個人別の報酬額については、選定した業績連動指標それぞれの達成度に役位ごとに定める基準額を乗じて算定します。

なお、取締役または執行役員を解任された場合および一定の非違行為があった場合には、取締役会の決議により、支給を受ける権利を失効させることができますこととしています。すでに支給を受けた者についても一定の非違行為があった場合には、取締役会の決議により、既に受領した金銭の返還を請求することができることとしています。

● 株式報酬

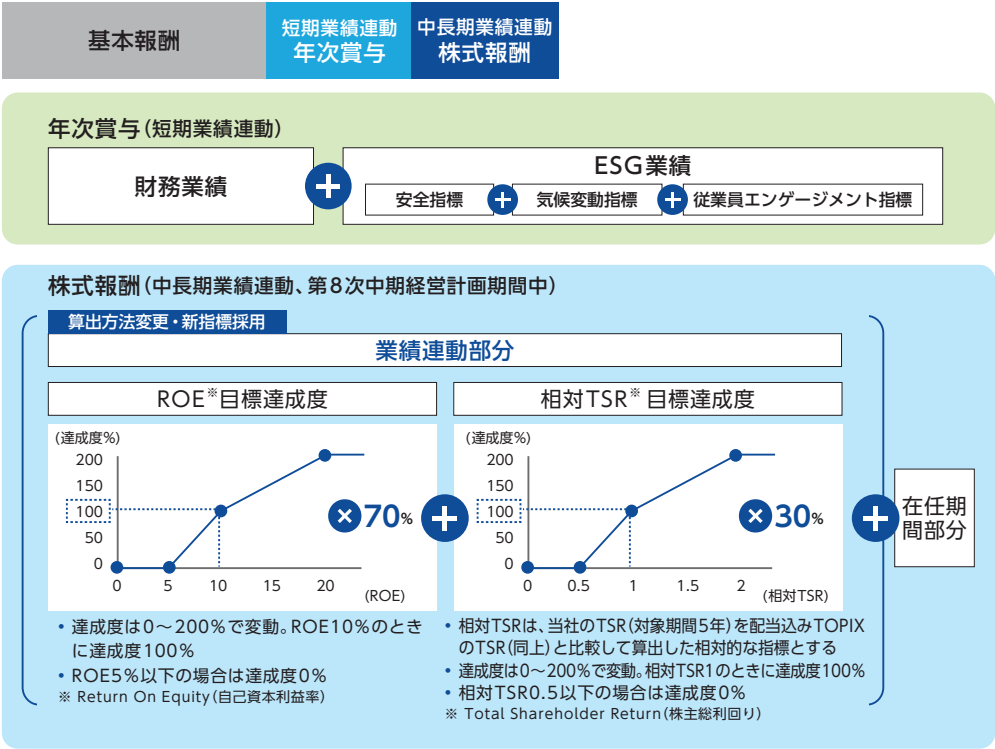
株式報酬制度は、当社グループの中期経営計画における業績目標等に連動させて給付水準を決定します。株主の皆様との価値共有を一層促進し、中長期的な企業価値の向上に貢献する意識を高めることが重要と考え、第8次中期経営計画において設定したROEの目標値（10%以上）および相対TSRの目標値（1以上）を、業績連動部分の算定指標として選定しており、それぞれの指標の達成度に応じて、給付水準を決定します。

なお、取締役または執行役員を解任された場合および一定の非違行為があった場合には、取締役会の決議により、給付を受ける権利を失効させることができますこととしています。すでに給付を受けた者についても一定の非違行為があった場合には、取締役会の決議により、既に給付した当社株式等に相当する経済価値の返還を請求することができることとしています。

当社グループは持続的な成長に向け、より健全なインセンティブとして機能する役員報酬制度を目指し、報酬委員会・取締役会において引き続き検討を進めていきます。

当社取締役（監査等委員である取締役を除く）の報酬制度の概要

当社社長が業績目標を達成したときの報酬比率
 基本報酬：年次賞与：株式報酬 **2：1：1**



内部統制体制の強化

内部監査

JFEホールディングスおよび主要な事業会社ならびに重要なグループ会社に内部監査組織（2026年4月1日時点で計187名）を設置し、各社の業務運営に対する監査を実施しています。各内部監査組織は、相互に情報共有を行い、グループ全体の内部監査体制の充実を図っています。また、内部監査の実効性確保のため、内部監査の計画および結果について、毎年取締役会および監査等委員会ならびにJFEグループサステナビリティ会議に報告を行っています。

なお、JFEグループは、コンプライアンスの徹底の一環として、法令や社内規程等の遵守状況について、内部監査部門が毎年監査を行っています（独占禁止法、公務員等贈賄防止、税法、安全保障輸出管理、個人情報保護、安全・防災・環境管理など）。監査で問題点や指摘などがあれば、JFEホールディングスと事業会社の監査部門が連携してグループ内でその情報を共有し、グループ各社のサステナビリティへの取り組みに反映させています。

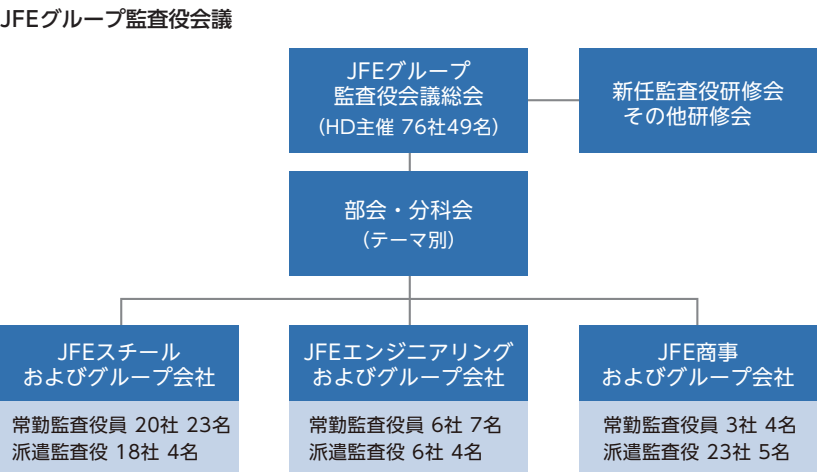
監査等委員会監査

当社は、社外取締役である監査等委員3名を含む監査等委員5名の体制で監査等委員会を構成しています。監査等委員会は、内部統制体制について、取締役および執行役員等からその構築および運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明しています。監査等委員は、監査等委員会が定めた監査等委員会監査等規程、監査方針、監査計画および職務の分担等に従い、会社の内部監査部門と連携の上、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役および執行役員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務および財産の状況を調査しています。また、子会社については、子会社の取締役および監査役等と意思疎通および情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受け、業務および財産の状況を調査しています。以上の方法により、取締役の職務の執行を監査しています。また、監査等委員会は、取締役の選解任等および報酬等について、指名委員会および報酬委員会の審議内容を検討した上で意見を形成しています。

常勤監査役員（常勤監査等委員および常勤監査役）および派遣監査役[※]をホールディングス以下グループ全体で、76社に対し49名を配置し、監査体制を構築しています。

これらで構成する「JFEグループ監査役会議」を設置し、その下で部会・分科会ごとにテーマを設けて、情報交換・研究・研鑽活動を行っています。年間の活動成果は「JFEグループ監査役会議総会」で発表され、各監査役員の監査活動に活かされています。

※ 事業会社からグループ会社に非常勤監査役として派遣される「派遣監査役」が各自1～5社のグループ会社の監査を行っており、13名が47社を担当



■ 監査等委員会、会計監査人の連携、内部監査部門の連携状況

監査等委員会は会計監査人（EY新日本有限責任監査法人）と定期的に、また必要に応じて会合を持ち、監査計画、監査の実施状況や監査結果の報告を聴取し、会計監査人の品質管理体制についても説明を受けるとともに、監査等委員会からも監査計画等の説明を行い、意見交換を行う等、密接な連携を図っています。また、内部監査部門と定例的に、また必要に応じて会合を持ち、内部監査計画、内部監査の実施状況や監査結果の報告を聴取し、意見交換を行う等、密接な連携を図るとともに、内部監査部門に対し適宜調査を求め、具体的な指示を行う等、監査の実効性向上に努めています。

■ 事業会社のガバナンス

JFEホールディングスの取締役および執行役員が各事業会社の取締役および監査役を兼ねることにより、グループ全体のガバナンス強化と情報共有を図っています。また各事業会社の株主総会や経営計画説明会においては、JFEホールディングスの経営陣が出席し、各事業会社の事業報告を受けるとともに、子会社の経営方針について議論するなど、ガバナンス強化に努めています。

■ 上場子会社・上場関連会社に関する考え方

(1) グループ経営に関する考え方および方針を踏まえた上場子会社、上場関連会社を有する意義

当社は、「常に世界最高の技術をもって社会に貢献します。」という企業理念を実践し、持続的な成長および中長期的な企業価値の向上を実現するため、高度な専門性を有する企業で構成する企業集団を形成し、グループ内の機能分担およびグループ外を対象にした事業展開を図っています。これら企業集団のうち、当社の子会社であるJFEスチール株式会社は以下に記載の1社の上場子会社および4社の上場関連会社を有しています。

このうち上場子会社については、親会社であるJFEスチール株式会社との事業上の関連性に応じて最適な体制を志向しており、資金調達、営業・販売および人材採用における知名度や信用力という観点で、上場することが当該企業の成長およびグループ全体の価値向上に必要と総合的に判断した会社を上場させています。

また、上場関連会社4社は、資金調達、営業・販売および人材採用における知名度や信用力という観点から、競争力を向上させる手段として上場しています。JFEスチール株式会社は、鉄鋼製造関連技術の交流や人材交流などのメリットがあるため、4社の株式を一部保有しています。

【上場子会社】

JFEシステムズ(株) (東京証券取引所 スタンダード市場)

同社は、情報システムの企画・設計・開発・運用・保守を行うシステム・インテグレーション、ソリューションや自社プロダクトを活用したシステム構築、業務システムを支えるITインフラソリューションを主要な事業としています。

鉄鋼事業におけるコンピュータシステムは、受注・生産・出荷・品質管理等、事業活動全般を支え、多様なデータを活用するための重要な基盤であり、また今後DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進していく上でも、同社を子会社としてノウハウの蓄積や人材交流の継続性を担保することは、JFEスチールが競争力を維持するために不可欠です。

なお、同社は、前身の川鉄情報システムが2001年3月に東京証券取引所第二部に上場しており、2026年3月31日現在、JFEグループ全体で68.1%の株式を保有しています。

【上場関連会社】

ジェコス(株) (東京証券取引所 プライム市場)

同社は、建設仮設材の賃貸および販売、仮設工事の設計・施工等を主要な事業としています。前身の川商リースシステムが1994年8月に東京証券取引所第二部に上場し、その後1996年9月に東京証券取引所第一部に指定替えされました。2026年3月31日現在、JFEグループ全体で39.5%の株式を保有しています。

品川リフラ(株)(東京証券取引所 プライム市場)

同社は2025年10月1日付で、品川リフラクトリーズ(株)から品川リフラ(株)に商号変更しました。同社は、耐火物の製造・販売および窯炉の設計・築炉工事等のエンジニアリングサービスを主要な事業としています。前身の品川白煉瓦が1949年5月に東京証券取引所第一部に上場し、その後、JFEスチールの関連会社となりました。2026年3月31日現在、JFEグループ全体で34.9%の株式を保有しています。

日本鑄造(株)(東京証券取引所 スタンダード市場)

同社は、多様な鑄造品を製造する素形材事業、橋梁部品等を設計・製造するエンジニアリング事業等を主要な事業としています。1961年10月に東京証券取引所第二部に上場しており、2026年3月31日現在、JFEグループ全体で36.2%の株式を保有しています。

日本鑄鉄管(株)(東京証券取引所 スタンダード市場)

同社は、ダクタイル鉄管・ポリエチレン管の製造販売、水道管路敷設工事等を主要な事業としています。1962年7月に東京証券取引所第二部に上場し、その後、JFEスチールの関連会社となりました。2026年3月31日現在、JFEグループ全体で30.0%の株式を保有しています。

上記の5社に対しては、上場子会社に関する経済産業省や東京証券取引所の指針を踏まえ、他の連結子会社および関連会社とは異なるルールを適用するなど、各社が自主性・機動性を発揮した自律的な企業活動を行うとともに、各社、JFEスチールおよび当社からの独立性を有した社外取締役の選任や、独立社外取締役を含む独立性を有する者で構成された特別委員会の設置等を通じて、上場会社としての経営の独立性を確保し、当該子会社・関連会社および当社以外の当該子会社・関連会社の株主の利益が不当に損なわれることのないよう努めています。

上場子会社および上場関連会社における事業機会・事業分野の調整・配分については、当社連結財務諸表に重要な影響を与える場合を除き、各社の自主的な経営判断を尊重しています。

また、資金調達および運用については、各社の財務戦略に基づき各社が独立して実行しています。なお、現在、上場子会社および上場関連会社から当社への資金の預入はございません。

グループのリスク管理上必要な事項については、各社による独立した意思決定を担保しつつ、事前の協議・報告を求めることとしており、グループ会社の一員としてのリスク管理を行っています。

(2) 上場子会社、上場関連会社のガバナンス体制の実効性確保に関する方策

各社の役員指名に関する各議案は、各社が主体的に策定しており、JFEスチールは各社の独立性および指名委員会の判断を十分に尊重し、各社の中長期的な企業価値向上を目指して、議決権を行使しています。

なお、当社およびJFEスチールは、各社との技術交流や人的交流等におけるメリットを最大化する目的から、一部の取締役候補者について推薦することがあります。

当社は、上場子会社の上場意義の検証を定期的に実施し、取締役会で確認した上で必要な対応をとることとしています。本内容については、2026年5月に開催された取締役会において検証・議論したものです。

株式の政策保有および政策保有株式に係る議決権行使に関する基本方針

当社が保有する株式はすべて子会社株式ならびに関連会社株式です。当社の100％子会社でありかつ事業会社であるJFEスチール、JFEエンジニアリングおよびJFE商事（以下、「各事業会社」）は、原則として上場株式を政策保有株式として保有しません。ただし、グループの事業の維持および成長のために必要と判断した会社の株式については、例外的に政策保有株式として保有します。

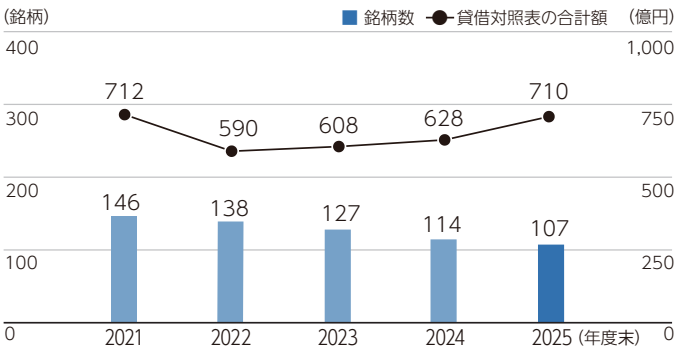
保有する政策保有株式については、定期的に保有意義および保有に伴う便益・リスクが資本コストに見合っているかを取締役会で確認し、保有意義が無くなった場合や株主利益の毀損リスクが発生する場合には売却します。なお、2025年度は、上場会社株式5銘柄のすべてまたは一部につき、24億円（時価ベース）を売却しています。また、取締役会において、保有意義および投資リターンについて定期的に検証しています。

政策保有株式に係る議決権行使については、各事業会社において議案の内容を検討の上、株主利益最大化に沿った形で適切に行使します。具体的には、投資申請部署と投資管理部署による議案内容のチェックにより、当該会社株主としての利益最大化が毀損されることはないと判断した議案に対して賛成します。

なお、当社連結財務諸表において投資株式の貸借対照表計上額が最も大きいJFEスチールの投資株式のうち、保有目的が純投資以外のものは以下の通りです。

銘柄数および貸借対照表計上額

	2021年度末	2022年度末	2023年度末	2024年度末	2025年度末
銘柄数(銘柄)	146	138	127	114	107
貸借対照表計上額の合計額(億円)	712	590	608	628	710



コンプライアンス

基本的な考え方

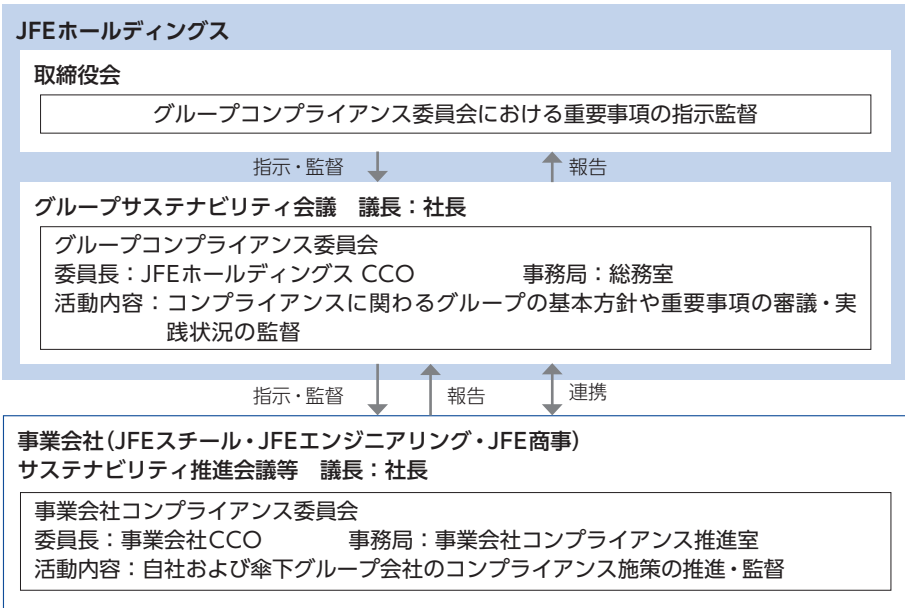
JFEグループは、幅広く国内外でビジネスを展開していく上で、お客様をはじめ、株主・地域社会などすべてのステークホルダーとの信頼関係が重要であり、「コンプライアンスの徹底」は、その信頼関係の基盤であると考えています。コンプライアンス違反に起因する不正や不祥事は、長期にわたり築きあげた信頼関係を一瞬にして損なうものです。JFEグループでは、コンプライアンスを経営の重要課題と位置づけ、組織を構成する全員がコンプライアンスの知識や認識を深め日々実践していくことが重要だと考え、eラーニングやコンプライアンスガイドブックの作成・読み合わせなどを通じて独占禁止法、取適法、公務員等への贈賄などの腐敗行為の防止等に関する教育を行っています。

コンプライアンス体制

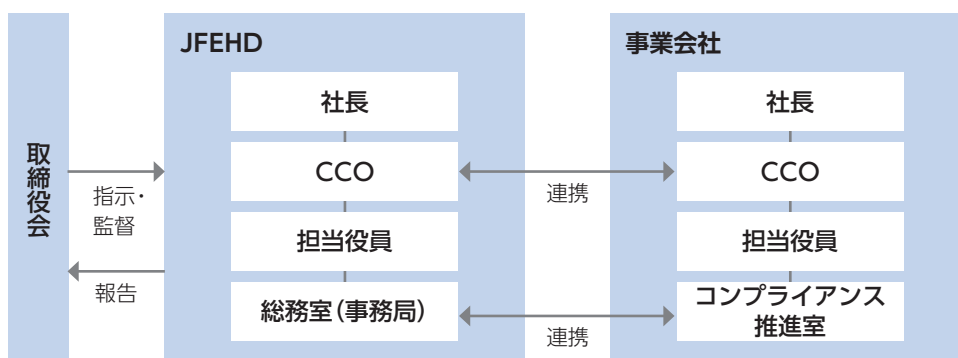
JFEグループは、2026年4月に企業理念・行動規範・企業行動指針の実践にあたって、コンプライアンスの徹底に関する当社の方針をより明確にすることを目的に、「コンプライアンスに関するグループ基本方針」を制定しました。また、各社に最高コンプライアンス責任者としてCCOを設置するとともに、各事業会社にコンプライアンスの専門組織を設置しました。特に重大なコンプライアンス事案が発生した場合には、速やかに取締役会に報告し、取締役会が監督します。

JFEホールディングスの社長が議長を務めるグループサステナビリティ会議の下に、CCOが委員長を務めるグループコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスに関わるグループの基本方針や重要事項の審議、実践状況の監督を行っており、年4回程度開催しています。グループコンプライアンス委員会における重要事項（コンプライアンスに関わるグループの基本方針、重大コンプライアンス事案への対応状況、内部通報制度の運用状況、企業倫理意識調査の結果およびその取組状況等）は、取締役会に毎年報告することにより、指示監督を受けます。また、各事業会社のCCOが委員長を務める事業会社コンプライアンス委員会を設置し、自社および傘下のグループ会社のコンプライアンスに沿った事業活動を推進・監督する体制を整備しています。さらに、当社グループではコンプライアンスに関わる重要情報が現場から経営トップに直接伝わる制度として「企業倫理ホットライン」を導入しています。

コンプライアンス体制図



コンプライアンス事案発生時のフロー



「JFEグループ企業行動指針」ならびに「コンプライアンスに関するグループ基本方針」の詳細は、以下をご参照ください。

[> JFEグループ企業行動指針](https://www.jfe-holdings.co.jp/company/philosophy/guideline.html)

[> コンプライアンスに関するグループ基本方針](https://www.jfe-holdings.co.jp/company/philosophy/compliance-policy.html)

目標と実績

企業理念・行動規範に基づいた企業活動を実践するための指針として、「JFEグループ企業行動指針」を制定し、企業倫理の徹底について、JFEグループ役員・従業員に対する周知を図っており、その実現のため、経営上の重要課題として「企業倫理の徹底と法令遵守」を掲げ、KPIを設定することで取り組みを推進しています。

[> 2025年度のKPI実績と2026年度のKPI \(P.19\)](#)

取り組み

企業倫理の徹底と法令遵守

コンプライアンス教育

JFEグループは、コンプライアンスの意識強化の取り組みの一環として、企業活動における各種法令や社内ルールの遵守のための正しい対応や違反事例（カルテルや入札談合、国内外の公務員等への贈賄やインサイダー取引、ハラスメント、環境関連法令や労働基準・安全衛生に関する法令への違反等）をまとめた「コンプライアンスガイドブック」を作成し、役員・従業員に配付（国内・海外）・読み合わせ等を行うことによりルールの周知徹底を図っています。このガイドブックは、法令や社内ルールを守り、社会常識に則って行動するための具体的な基準を、100以上のケーススタディ形式で平易に解説したものです。

日々の業務の中で疑問を感じたり、判断に迷ったりしがちな状況や事例をまとめ、各担当部署による解説を付記しており、それらの内容は弁護士によるチェックを受けています。なお、法令やルール改正にあわせて定期的に内容を見直すとともに、ケースの追加・改廃などを行い、内容の充実を図っています。

また、定期的に独占禁止法、インサイダー取引防止、安全保障貿易管理、建設業法、取適法、公務員等への贈賄を含む腐敗行為防止などのテーマ別にコンプライアンス研修を実施しています。

加えて2025年度から、コンプライアンス違反防止策や対応策を自律的に考える意識を身に着けることを目的に、事例のケーススタディ等を行う「インテグリティ研修」を行っています。

内部通報制度の整備

JFEグループは、企業倫理、法令遵守、腐敗行為、人権侵害の未然防止を目的として、JFEグループの役員、従業員等（従業員、契約社員、パート、アルバイト、派遣社員またはそれらの退任・退職者）、ならびに取引事業者の役員、従業員等が利用できる「企業倫理ホットライン」を設置しています。独占禁止法違反や腐敗・贈賄をはじめとする法令違反から、職場の不正やハラスメント等の人権侵害にあたる行為まで幅広い内容の相談・通報を受け付けることにより、不正行為の未然防止、早期発見および早期是正を図っています。電子メール・専用電話・親書（郵送）によって通報・相談（匿名による通報・相談も可、電子メールは24時間365日・日英で受付）を受け付ける環境を整えており、社外窓口として独立した弁護士事務所にも同様の窓口を整備しています。

「企業倫理ホットライン」の運用にあたっては、通報・相談に関わる秘密保持の徹底や通報者・相談者への報復行為の防止などの通報者保護に関する規程・ルールを定め、積極的な情報提供を促進しています。通報・相談された事項に関する事実関係の調査を行う場合は通報者と相談の上、通報者のプライバシー保護に配慮しながら調査を進めるとともに、通報者の希望により、調査結果のフィードバックも実施しています。

なお、法令違反等が明らかになった場合には対象組織等において必要な是正措置ならびに救済措置を講じます。「企業倫理ホットライン」に通報・相談があった場合は、その内容を定期的に常勤監査役員（常勤監査等委員および常勤監査役）へ報告するとともに、取締役会において運用状況を報告し、監督を受けています。

外部ステークホルダーからのコンプライアンス等に関する問い合わせは、Webサイト上のお問い合わせフォーム（匿名での通報・連絡可）にて受け付けており、内容については秘密情報として取り扱った上、適切に対応しています。

法令違反等が発生した場合の対応プロセスは以下の通りです。

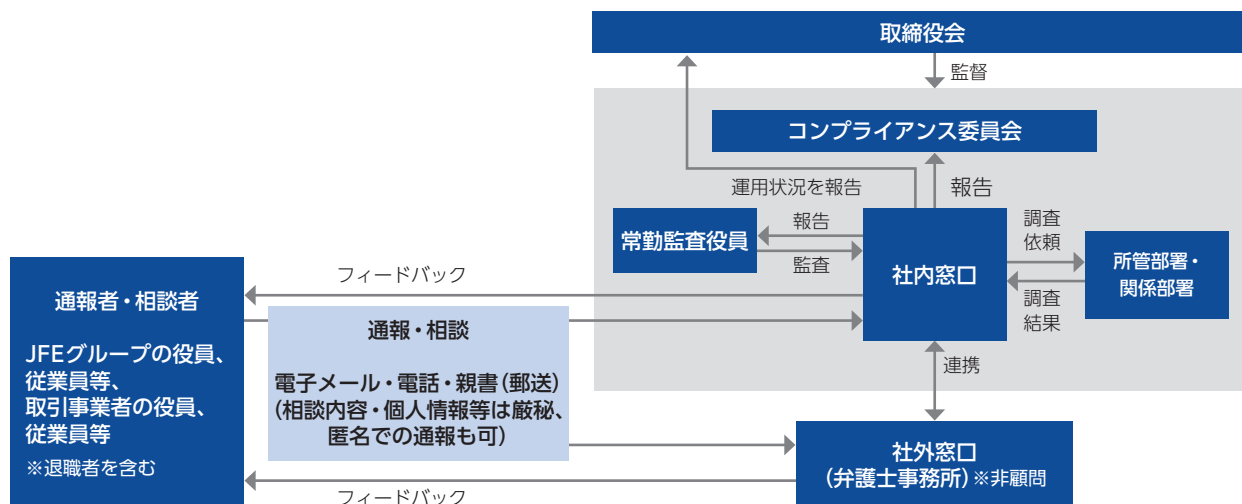
- JFEホールディングスのコンプライアンス担当部門ならびに各事業会社のコンプライアンス専門組織は、違反等が発生した部門やグループ会社に対して、初期対応および事実確認、原因調査、再発防止策の策定等を指示し、必要な対応を実施します。
- 各事業会社のコンプライアンス専門組織は、確認した事実や原因、再発防止策を、各社に設定するコンプライアンス委員会等に報告し、原因の確認と再発防止策の実効性および関係者の責任等を評価します。
- 重大なコンプライアンス事案が発生した場合にはJFEホールディングス CCOが速やかに取締役会に報告し、取締役会が適切に監督しています。またグループコンプライアンス委員会に報告し、グループ全体で共有するとともに、再発防止策等を水平展開することによりグループにおける同様の違反等の発生を防止します。

これらの内部通報制度については、社内イントラネット、各事業会社の社内広報誌への掲載や各職場へのポスター掲示に加え、グループ全社員に配布しているコンプライアンスガイドブックや各種コンプライアンス研修等において周知を行うことで認知度・信頼度向上を図っています。

また、外部弁護士を招き、JFEグループ内の企業倫理ホットラインやハラスメント相談窓口の受付窓口担当者（役職者を含む通報受付者）を対象に、通報を受けた際の守秘義務や通報を受けた際のケーススタディを交えた研修会を実施するなど、隔年で窓口担当者向けのトレーニングを実施しています（参加人数：2020年度 約200名、2022年度 約300名、2024年度 約300名）。

＜ガバナンスデータ 内部通報（P.296）

内部通報制度



— 腐敗(贈賄)行為の防止の徹底

JFEグループは、「企業行動指針」の中で法令を遵守し、公正で自由な競争を心がけ、適法な事業活動を行うことや政治や行政との健全かつ正常な関係の維持・構築に努めることを定めています。不適切な利益供与、過剰接待、便宜供与などの贈収賄や業務上の地位を利用した私的横領、利益相反行為等の腐敗行為を明確に禁じ、就業規則においてもこれらの法令違反行為は懲戒の対象とする旨を定め、腐敗行為防止の徹底を図っています。

近年、世界的な反汚職意識の高まりや関係当局による摘発強化から、公務員等への贈賄は大きなビジネスリスクとなっています。JFEグループは国内外の公務員等への金銭その他の利益の供与など贈賄を含むあらゆる犯罪行為を一切容認せず、これらの違法行為によって利益を得ることや問題を解決することはしないとの考えに基づき、「公務員等贈賄防止に関するグループ基本方針」を制定し、事業会社をはじめグループ内に展開しています。本方針に基づき、公務員等との接点を有する可能性のあるエージェント・コンサルタント等の社外関係者を起用する場合には、当該社外関係者に本方針を周知の上、第三者起用チェックリストによる確認や贈賄防止確認書の締結を行うなど、贈賄防止に関する体制の整備・運用に取り組んでいます。これらの体制が適切に整備・運用されているかについては、内部監査により毎年確認を行い、その結果を取締役に報告しています。

また、JFEグループでは、リスク評価の結果に基づき、毎年、従業員に対して、公務員等への贈賄防止に関する研修やeラーニングを行っています。

なお、2025年度は公務員等への贈賄に関する重大な案件はありませんでした。

贈賄防止関連の方針は、以下をご参照ください。

[> 公務員等贈賄防止に関するグループ基本方針](https://www.jfe-holdings.co.jp/company/philosophy/anti-bribery.html)

— 税の透明性

JFEグループは、JFEグループ企業行動指針に基づき、世界各国の税法および経済協力開発機構 (OECD) などの国際機関が公表している租税に関するガイドラインをはじめとする国際的なルール、それらの精神を遵守し、事業活動を行っている各国へ適時に適正かつ公正な納税を実施します。

また、租税回避を意図した税務プランニングやタックスヘイブンの使用を行わず、透明性を高めることで各国税務当局との信頼関係を築いていきます。

— 反社会的勢力の排除

JFEグループは、企業行動指針において反社会的勢力との一切の関係を遮断することを宣言し、「反社会的勢力への対応方針」・「企業対象暴力対応規程」を制定した上で企業対象暴力への初期対応マニュアルを含む反社会的勢力に対する対応基準を明確化しています。

「JFEグループ反社会的勢力への対応方針」については取締役会において決議しており、本方針に基づきグループのコンプライアンス体制の中で組織的・統一的な対応を進めていくことにより、健全な会社運営の確立を図っています。具体的には、反社会的勢力との関係を一切遮断することを目的とし、反社会的勢力への対応を所管する部署を各社の総務・法務担当部署と定めるとともに、事案発生時の報告および対応に係る規程等の整備を行い、反社会的勢力には警察等関連機関とも連携し毅然と対応していくこととしています。

また、eラーニングの実施およびコンプライアンスガイドブックの配布等を通じ、全役員・従業員に対し「JFEグループ反社会的勢力への対応方針」および具体的な対応基準等の周知徹底を図っています。

— 独占禁止法の遵守

JFEグループは、「企業行動指針」の中で法令を遵守し、公正で自由な競争を心がけ、適法な事業活動を行うとともに、健全な商慣習に則り、誠実に行動することを定めています。JFEグループは、過去の独占禁止法違反を深く受け止め、独占禁止法を含む法令違反行為は一切認めず、これに反する事態には厳正に対処するとの考えに基づき、「独占禁止法等遵守に関するグループ基本方針」を制定しています。本方針に基づき、競争事業者との接触に関するルールの整備・運用、社内研修、内部監査等の独占禁止法遵守のための取り組みを行っており、これらの取り組みについては定期的にグループコンプライアンス委員会において報告することにより、取り組みの推進・監督を行っています。

なお、2025年度は独占禁止法に違反する重大な案件はありませんでした。

独占禁止法等遵守に関するグループ基本方針は、以下をご参照ください。

[> 独占禁止法等遵守に関するグループ基本方針](https://www.jfe-holdings.co.jp/company/philosophy/competition-law.html)

— 従業員を対象とした企業倫理意識調査による確認と改善

JFEグループでは、グループの企業理念・行動規範・企業行動指針の浸透・徹底を確認すること、潜在的なリスクの洗い出し等を目的として、当社および事業会社の役員・従業員を対象に「企業倫理等に関する意識調査」を定期的（2024年度から2年に1回に変更）に実施しています。2024年度に実施した調査では、多くの従業員がグループ理念・グループ行動規範や自己の業務に関する法令・規程類を十分に理解し、また、職場において「公務員等贈賄防止に関するグループ基本方針」、「贈答・接待ガイドライン」を遵守していることを確認するなど、高いコンプライアンス意識を持って業務を行っていることを確認できた一方で、今後の課題も把握しました。企業倫理等に関する意識調査の結果およびその対応方針については、2025年度にグループサステナビリティ会議および取締役会で報告し、グループサステナビリティ会議および取締役会の監督のもと、各社での具体的な取り組みを行い改善を進めました。また、2026年度にも同様の調査を実施し、課題の改善状況や従業員の意識の変化を確認することにより、今後の取り組みに反映していきます。

なお、グループ理念および行動規範については、2025年5月に公表した第8中期経営計画策定時にJFEグループ全体の求心力として、創業以来不変の理念であることを、JFEホールディングス取締役会で改めて確認しています。

— JFEグループのコンプライアンス事案について

■ JFEグループ社員の起訴について

JFEエンジニアリング株式会社は、同社が2017年6月および2020年6月に沖縄県竹富町と契約した海底送水管更新工事に関して、入札談合等関与行為防止法違反および公契約関係競売入札妨害罪により同社元社員が有罪判決を受けたことから、建設業法に基づき、2025年5月に国土交通省より全国における水道施設工事業に関する営業のうち公共工事に係るものについて、60日間の営業停止命令を受けました。本事案を厳粛かつ真摯に受け止め、再発防止策を引き続き実行することにより、早期の信頼回復に努めてまいります。

■ JFE商事のバイオマス燃料取引における不適切行為について

JFE 商事 (株) が手掛けるバイオマス燃料取引において、納入先のお客様に対する不適切行為^{*}が発生致しました。

インテグリティ研修の実施、事案の水平展開と自主チェックの実施、社長メッセージの発出等の再発防止策をJFE 商事グループ各社で実施し、その実施状況も含めてグループコンプライアンス委員会で報告・共有し、取締役会はその監督を行っています。

本事案を極めて重大に受け止め、再発防止策に徹底して取り組むとともに、グループ一丸となって早期の信頼回復に努めてまいります。

※ バイオマス発電所に納入しているヤシ殻・木質ペレットについて、同社のバイオマス燃料部が、お客様との間で取り決めていた契約以上の品代、海上運賃などをお客様に請求し、過剰な利益を得ていたもの。

再発防止策を含む詳細は、以下をご参照ください。

＜ JFE商事公式ホームページ ＞ (<https://www.jfe-shoji.co.jp/wjfe/wp-content/uploads/2025/06/news250619.pdf>)

リスクマネジメント

基本的な考え方

JFEグループは、「常に世界最高の技術をもって社会に貢献します。」という企業理念のもと、グループの持続的な成長と企業価値の向上に向け、グループ全体のリスクを的確に認識しています。さらに、確実な対応を図るため、リスク管理体制を整備し、活動を推進しています。

リスクマネジメント体制

JFEホールディングスが持株会社として、「内部統制体制構築の基本方針」に基づき、グループ全体の包括的なリスク管理を担っています。当社の取締役会は、リスク管理に関する監督責任を果たすとともに、その実効性を確認する体制を構築しています。

事業活動に伴うリスクについては、各分野に責任を有する執行役員などが認識・評価を行い、必要に応じてJFEホールディングスの代表取締役社長（CEO）が議長を務める「グループ経営戦略会議」や「経営会議」において、リスクの確認・評価を実施し、その対処方針やリスク管理に関する活動計画について審議・決定されます。

また、ESGに関連するリスクについては、コンプライアンス（独占禁止法・公務員等に対する贈収賄を含む汚職防止に関する法令等の遵守、企業理念や「JFEグループ企業行動指針」などの会社方針・規程の遵守等）、環境・気候変動、人事・労働、安全・防災、セクシャルハラスメント・パワーハラスメント等人権侵害、品質管理、財務報告、情報セキュリティなど、各分野に責任を有する執行役員などが認識・評価を行い、必要に応じてJFEホールディングスの代表取締役社長（CEO）が議長を務める「グループサステナビリティ会議」において、リスクの確認・評価を実施し、その対処方針やリスク管理に関する活動計画について審議・決定され、グループ全体での対応が図られています。

取締役会は、これらのリスク管理に関するグループ方針および活動計画などについて定期的に報告を受けるとともに、重要事項について審議・決定を行うことで、リスク管理の監督と実効性の確認を継続的に実施しています。

引き続き、取締役会での議論を踏まえ、グループ全体のリスク管理体制の継続的な改善と強化を図っていきます。

リスクマネジメントに関連する方針・体制は、以下をご参照ください。

- ＞ 内部統制体制構築の基本方針 (<https://www.jfe-holdings.co.jp/company/info/pdf/naibutousei.pdf>)
- ＞ グループサステナビリティ推進体制 (P.10)
- ＞ 内部通報制度の整備 (P.265)

取り組み

個別リスクへの対応状況

気候変動リスクへの対応

JFEグループでは、「環境的・社会的持続性の確保」を主要施策の一つとし、2050年カーボンニュートラルの実現を目指す「JFEグループ環境経営ビジョン2050」を策定しました。このビジョンを通じて、気候変動問題への取り組みを事業戦略に組み込み、TCFDの理念を経営戦略に反映させることで、体系的に気候変動問題解決に向けた取り組みを進め、カーボンニュートラルに向けた技術開発のトップランナーを目指していきます。

気候変動関連リスクと機会については以下をご参照ください。

[> リスクと機会の特定・評価\(TCFD推奨シナリオ分析\) \(P.113\)](#)

知的財産の管理

JFEグループは、事業活動のさまざまな場面において知的財産の適切な管理を実施しています。第三者の知的財産権の侵害を防止するために、事業に関連する知的財産の最新情報を管理し、必要な対策を取っています。

知的財産に関する取り組みについては以下をご参照ください。

[> JFEグループ統合報告書 \(https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/library/group-report\)](https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/library/group-report)

個人情報保護

JFEグループは、マイナンバーを含む個人情報の取り扱いに関する「個人情報保護方針」を定めています。

本方針に基づき、個人情報の管理に関する社内規程を整備し、事業に関係する各国の法令およびガイドラインにしたがい従業員への周知徹底、教育啓発活動を行うことにより、個人情報の適切な保護に努めています。

サイバー攻撃やシステム不正利用による個人情報の流出等を含む情報セキュリティリスクを低減し事業活動を安全に推進するため、各事業会社のIT部門長が参画するJFE-SIRT (JFE-Security Integration and Response Team) は、日本国内で活動する有志の民間および企業内CSIRT (Computer Security Incident Response Team) により設立された日本シーサート協議会へ参画し、インシデント関連情報の交換や連携を図ることを通じて取り組みのレベル向上に努めています。

個人情報保護に関する方針は、以下をご参照ください。

[> JFEグループ個人情報保護方針 \(https://www.jfe-holdings.co.jp/privacy.html\)](https://www.jfe-holdings.co.jp/privacy.html)

情報セキュリティ

JFEグループは情報セキュリティ管理の諸規程を制定し、サイバー攻撃やシステムの不正利用による情報漏洩やシステム障害を防止する対策を実施しています。従業員に対しては教育・訓練等の指導を行い、ルールの周知徹底および情報セキュリティに関する知識の向上を図っています。また、グループ各社には共通のIT施策を適用するとともに、定期的に情報セキュリティ監査を行い、グループ全体での情報セキュリティ管理レベルの向上に努めています。

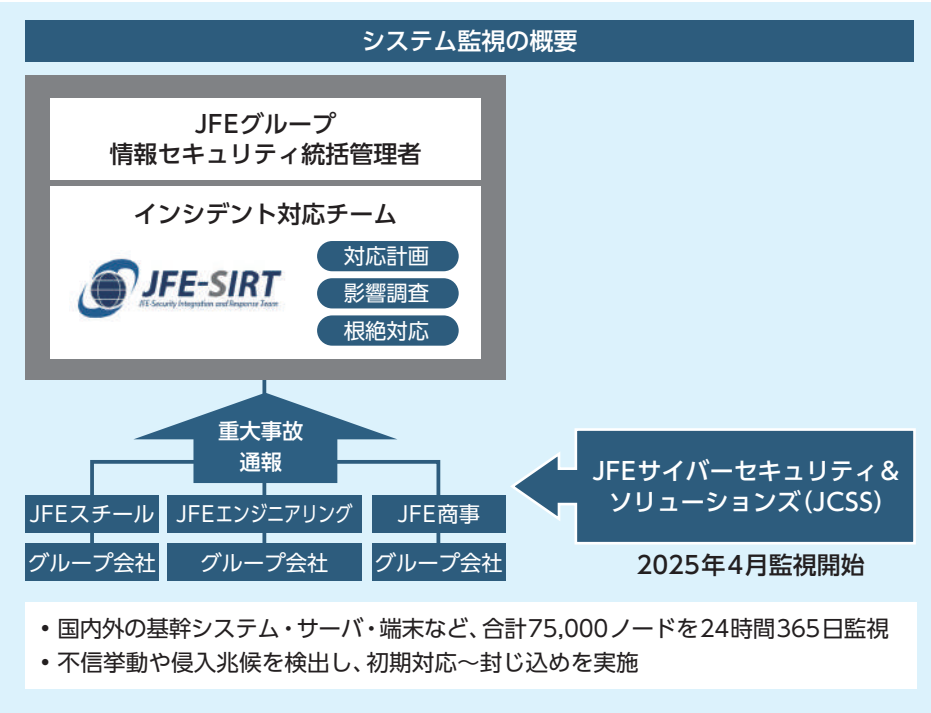
また、「グループ情報セキュリティ委員会」において、情報セキュリティを中心としたITに関する重要課題を審議し、方針を決定しています。

同委員会で決定された方針に基づき、「JFE-SIRT」が情報セキュリティ施策の立案と実施推進、情報セキュリティ監査、インシデント発生時の対応指導を行い、グループ全体の情報セキュリティ管理レベル向上を推進する役割を担っています。さらに、JFEサイバーセキュリティ&ソリューションズ(株)を2024年4月に設立し、外部に依存しない自立した高度セキュリティ人材の獲得・育成およびセキュリティ監視機能の強化を推進しています。

なお、JFEグループは、「JFEグループ サイバーセキュリティ経営宣言」を公表しています。DXを進める上で必須となるサイバーセキュリティを投資と位置付けて積極的な経営に取り組む一方で、サイバーセキュリティの強化を経営の重要課題と認識し、昨今の深刻化・巧妙化・高速化するサイバー脅威に対し、さらなるサイバーセキュリティ強化を推進しています。

情報セキュリティのより詳細な情報は、DX REPORTの情報セキュリティマネジメントをご参照ください。
[> DX REPORT \(https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/library/dxreport/index.html\)](https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/library/dxreport/index.html)

JFEグループにおけるデジタル・ガバナンスおよびサイバーセキュリティの枠組み



その他の個別リスクへの対応

- その他の個別リスク・対応については、以下をご参照ください。

 - [有価証券報告書－第24期\(P.32\)](#) (<https://azcms.ir-service.net/DATA/5411/ir/S100YCUD.pdf>)
 - [気候変動問題への取り組み](#) (P.49)
 - [労働安全衛生](#) (P.202)
 - [人的資本](#) (P.186)
 - [人権](#) (P.212)
 - [良質な商品の提供とお客様満足度の向上](#) (P.226)
 - [サプライチェーンマネジメント](#) (P.233)

JFEグループのBCP体制

JFEグループでは、台風・大規模な地震等の自然災害、新型インフルエンザ等の感染症の急速な拡大等、危機が発生した場合を想定し、事業継続計画（BCP：Business Continuity Plan）を策定するとともに、定期的な訓練を実施するなど、さまざまな対策に取り組んでいます。

なお、実際に大規模地震等が発生した場合には、グループサステナビリティ会議において、損失等を最小限にとどめるため、予め対応プロセスを定め、その対処方針について直ちに審議、決定することとしています。

大規模な自然災害への対応

大規模地震に対しては、津波に対する避難場所の設置や、通信規制・停電等の状況下での全社指揮命令機能の維持、データのバックアップ等の対策を実施しています。近年激甚化する国内の台風や豪雨に対しても、製鉄所内の排水設備の増強等を実施しています。

感染症への対応

新型インフルエンザ等の感染症への対応方針を定めており、製鉄所・製造所の操業をはじめとした重要業務の維持継続のため、万が一感染が拡大し従業員の欠勤率が増加した場合の操業シミュレーションを実施するなどさまざまな状況に応じた対策を講じています。また、本対応方針については、サステナビリティ会議等において、適宜点検・見直しを実施しています。加えて、従業員を感染症の脅威から守るため、海外赴任者とその帯同家族、海外出張者に必要な予防接種や健康診断等を実施するとともに、各国の安全情報や感染症情報を提供して注意を喚起し、状況によって渡航制限等の安全対策も実施しています。